

所在地:	神奈川県横須賀市神明町58-4				
敷地面積:	45917㎡	延床面積:	43242㎡		
設立:	1982年11月	従業員数:	612名		
ISO14001取得:	1997年9月	ISO14001最新更新:	2011年7月		
主要製品:	業務用機器、プロジェクター				
環境コミュニケーション:	10年度				
情報開示:	1件	工場見学:	113名	地域貢献活動:	8件
問合せ:	コーポレート管理部 環境・社会貢献室		TEL:	045-450-2512	

ごあいさつ

当サイトは横須賀市久里浜に位置し、近隣には美しい「くりはま花の国公園」や黒船が来航した「ペリー公園」等、郷土・自然環境に恵まれた地域で1982年に創業しました。

主な事業概要は業務用機器、プロジェクター関連機器・部品の生産及びサービスパーツ供給を中心に事業活動を行っております。

1997年9月にISO14001の認証取得を受けて以来、環境保全活動は企業の社会的責任であることを深く認識し「文化に貢献 社会に奉仕」を念頭に環境負荷低減の為、継続的改善に努めています。

今世界的に環境意識が高まる中で、当サイトはグローバル企業のメイン工場として、欧州、アジア、国内他各国の環境法規制を順守し迅速かつ適切に多角的な取り組みを推進していきます。



環境責任者
長谷川 和宏

2010年度の環境重点テーマの取り組み

目標	2010年度の成果
省エネルギーへの取り組み 電力・灯油の削減(前年比0.5%以上削減)	電力・灯油の使用量を削減する為、照明の間引き、クリーンルーム設備での電力削減改善等を行い、年間目標(前年比-0.5%削減)を達成した。
廃棄物排出量の削減 (前年比2%削減)	廃棄物の分別を強化し有価化を促進する事で、廃棄物排出量の年間目標(前年比2%削減)を達成した。

製品・環境配慮ポイントの紹介

業務用機器

電気回路のアナログからデジタル化を実施して、2007年度モデル比で年間消費電力の約60%の削減と約80%の省スペース化も実現。大規模化する『非常放送設備/業務放送設備』をコンパクト化し、環境負荷を低減。



EM-A842D

業界初*

非常用放送設備対応
(日本消防検定協会認定)

主な生産製品

壁掛型非常業務放送装置

業界で初めて、壁掛型防災アンプにデジタルパワーアンプを採用。消費電力、CO2排出量を大幅に低減します。160W以上の場合、日常のBGMやアナウンス放送時では、従来のアナログパワーアンプに比べ、消費電力を40%以上も低減。学校やスーパーなどの小規模施設からもエコ志向の業務放送を実現します。



EM-K100シリーズ

D-ILA 4K2Kプロジェクター

330Wの超高圧水銀ランプ2灯システムを採用により、5000lmの高輝度と低ランニングコストを実現



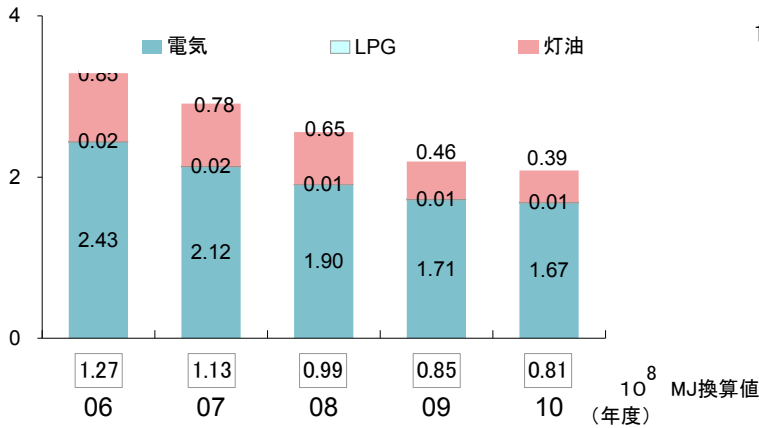
DLA-SH7NL

- ・高コントラスト10,000:1
- ・高解像度4,096×2,400画素
- ・高輝度5,000ルーメンが美でる4Kの世界

環境パフォーマンスデータ グラフ表示年 2010:2010年4月1日～2011年3月31日

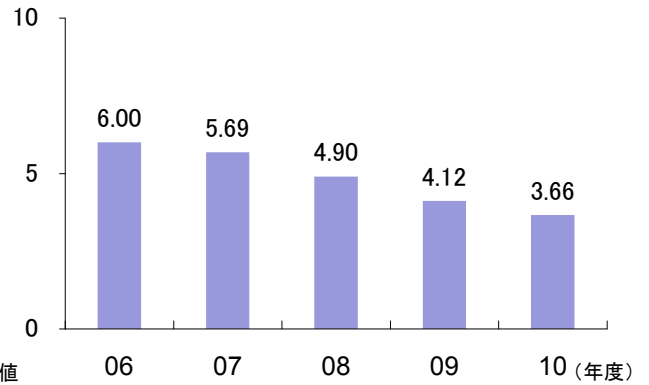
エネルギー使用量

原油換算値 単位:千kl



CO2排出量

単位:千t

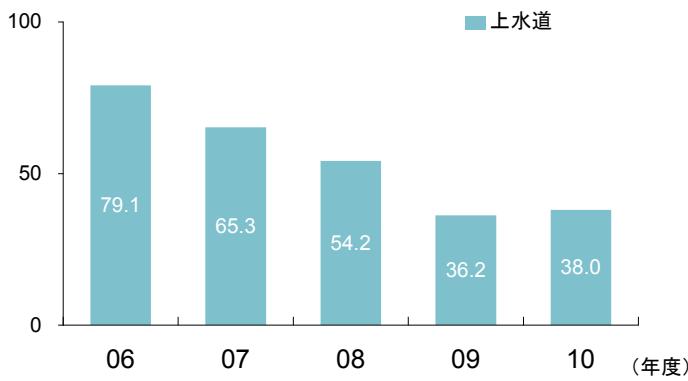


算出基準について

電力のCO2換算値は電気事業連合会の資料に準拠しています。2010年度のCO2換算は0.412kg/kwh(2009年実績値:2010年9月公表値)を使用しました。

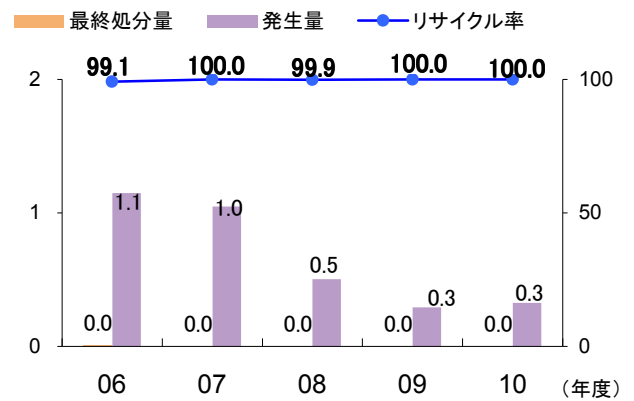
水の使用量

単位:千m³



産業廃棄物・有価発生物

単位:千t、%

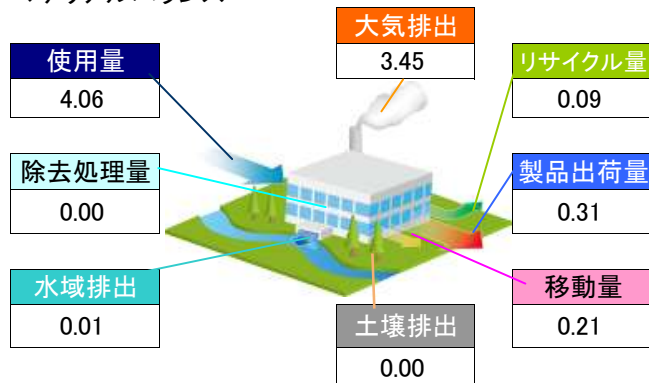


化学物質

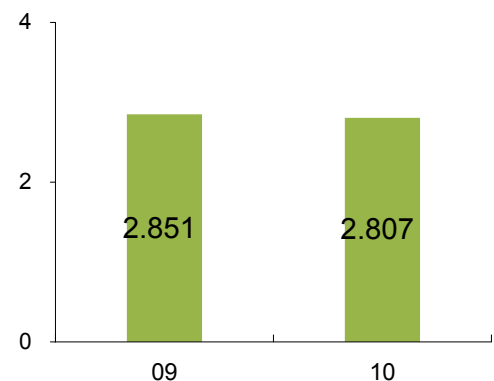
単位:t

マテリアルバランス

10年度



重点削減物質 排出・移動量



環境パフォーマンスデータの特記事項

重点削減物質=PRTR法、VOC(大気汚染防止法)、GHG(地球温暖化対策法)の中で、環境影響の大きいとされる物質を削減対象として指定しています。(電機業界での使用実績の大きいものなど 約60物質群を指定しています。)

環境法令等の順法状況 10年度

<大気汚染物質計測状況>

	単位	施設名	法令規制値	自主規制値	実績平均値	実績最大値	計測頻度
SOx	Nm3/h	N/A					
NOx	ppm	B-1	150.00	120.00	99.00	99.00	1回/年
		B-2	150.00	120.00	94.00	94.00	1回/年
		B-4	80.00	64.00	45.00	46.00	2回/年
ばいじん	g/Nm3	B-1	0.15	0.02	0.01	0.01	1回/年
		B-2	0.15	0.02	0.01	0.01	1回/年
		B-4	0.15	0.02	0.01	0.01	2回/年

<水質汚濁物質計測状況>

	単位	施設名	法令規制値	自主規制値	実績平均値	実績最大値	計測頻度
COD	mg/l	N/A					
BOD	mg/l	N/A					
窒素	mg/l	N/A					
リン	mg/l	N/A					

<騒音・振動>

	単位	計測場所	法令規制値	自主規制値	実績平均値	実績最大値	計測頻度
騒音	dB	昼 敷地境界	70.00	70.00	49.00	52.00	1回/年
		夜 敷地境界	55.00	55.00	44.00	50.00	1回/年
振動	dB	昼 敷地境界	70.00	70.00	25.00	25.00	1回/年
		夜 敷地境界	60.00	60.00	25.00	25.00	1回/年

法令規制値:法または条例および協定の規制する値

N/A:法令規制対象外の項目

法令規制値超過について

法令規制値及び自主規制値の超過はございません。

指導、指摘事項に対する改善状況

指導、指摘事項	改善対策
指導、指摘事項等はありません。	

環境方針

日本ビクター株式会社国内グループ環境方針

＜経営基本方針スローガン＞

「文化に貢献 社会に奉仕」

＜基本理念＞

日本ビクター株式会社国内グループは経営基本方針スローガンのもと、すべての事業活動において「地球環境の保全」に取り組み、国際社会から信頼される「良き企業市民」として持続的発展が可能な社会の実現に向かって努力します。

＜基本方針＞

広く環境の改善は企業の社会的責任であることを深く認識し、「オーディオ・ビジュアル・マルチメディア、システム・ネットワーク、コンポーネント・デバイス、メディア、IT、インテリア家具及び関連商品等の、研究、開発、生産、販売、施工、並びに業務用機器のメンテナンスサービス及び業務マネジメントサービス」を主とした本社・事業部・関連会社を含めた事業活動において、環境マネジメントシステムの継続的改善及び汚染予防活動を次により推進します。

1. 製品・サービスを含む事業活動により生ずる環境影響を常に考慮し、環境負荷の継続的な低減を図ります。
2. 国内グループの環境側面に適用する法規制及びその他の要求事項を順守し、必要に応じて自主基準を設定し管理の質の向上に努めます。
3. 環境改善活動を推進するための組織・体制を常に整備し、環境監査を実施することにより活動の継続的向上を図ります。
4. 国内グループのために働く人の環境に関する意識を高め、全員で環境の改善に取り組めます。
5. 地域社会との共存共栄を図るとともに、取引先及び海外事業所とも可能な限り協力して、環境改善を推進します。
6. 次の項目に重点的に取り組み、地球環境の保全に寄与します。
 - ①環境負荷低減型の研究開発と商品開発を進め、積極的に訴求します。
 - ②地球温暖化防止のため、省エネルギー活動を通してCO2排出量の削減に取り組めます。
 - ③廃棄物の資源化及び発生量の削減により、資源の有効利用を図ります。
 - ④化学物質を適正に管理し、使用量の削減に取り組めます。

～この環境方針は、社内外に環境パンフレットなどで公開しています。～

制定:1998年4月 1日
改訂:2011年4月21日
作成者:日本ビクター株式会社
国内グループ環境保全統括者
取締役 小宮山 正前

環境負荷削減の取り組み事例

環境保全活動

ISO14001認証の他、環境配慮型事業所として神奈川県より『環境管理事業所』の認定を受け、環境負荷低減を推進しています。



温暖化対策Co2削減への取り組み

廃棄物は、運搬業者と協力して、天然ガス車両での優先運搬を実施しCo2削減に努めています。



資源の有効活用

工場から毎日排出される廃棄物は約50種類に分別しリユース・リサイクル・有価物としてし環境負荷低減を図っています。



環境コミュニケーション事例

工場内 VHS記念館

”電子機器発展の歴史”や”映像世界の素晴らしさ”をテーマに学校の生徒さんや、一般の方々に見学を頂いています。



横須賀工場の環境情報発信

横須賀工場の環境に関する取り組みを地域住民や当工場への来訪者にPRするため、“環境掲示板”に横須賀工場の活動内容を掲示しています。



社会貢献活動

横須賀工場では1998年より12年間継続してジョイセフへの寄付による支援活動を継続しております。活動はEMS委員を中心に、従業員、関連会社、協力会社の方々の善意の協力を得て募金を主体に使用済切手や外国コイン、インクカートリッジの収集寄付を行なっております。
*ジョイセフ(財団法人家族計画国際協力財団)とは1968年日本で設立されたNGOで、途上国の妊産婦と女性を守る為の活動を世界各地で行っています。



緊急事態への準備と対応

考え方と訓練計画

近隣や地球環境に与える影響度を考え万一の場合を想定して、緊急事態の回避訓練を年間計画に基づき適時実施しています。又、施設や方法・手順書(マニュアル)についても定期見直しを実施しています。

敷地内化学薬品漏洩事故の想定例

施設見直しで化学薬品の搬出・入時漏洩で近隣に流出する可能性を確認
写真1 ピット未設置



写真1

化学薬品車の搬入搬出場所に漏洩を想定し流出防止ピット(側溝)を新設
写真2 コの字型ピット



写真2

化学薬品車からの漏洩を想定し、散水して流出防止訓練を実施
写真3 ピット内に散水



写真3

漏洩した化学薬品をポンプで回収する訓練
写真4 ピットから吸引



写真4

回収した化学薬品を施設内貯留槽に回収する訓練
写真5 貯留槽へ回収



写真5